

虚実皮膜の間

にしきかげえ

ふいるむ

あわい

往昔、浪華の名物「錦影絵」を、
御覧に供じます。

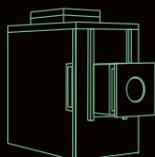
錦影絵

桜白浪憑依豆袋

さくらしらなみひよいとぶくろ

日本で最初に大阪・難波新地で上演された、南蛮渡来の幻燈見世物。この金属幻燈を、日本独自の発想で展開した「錦影絵」(江戸では「写し絵」)は、幻燈師が操る風呂——木製幻燈機と、種板——仕掛けスライドが、和紙スクリーンに繰り広げる玄妙な物語世界です。ここに、日本のアニメーションのルーツがあります。

さくらしらなみひよいとぶくろ
錦影絵「桜白浪憑依豆袋」



日本のアニメーションの原点である、ジャパニーズファンタスマゴリア「錦影絵」の復元と、新作上演に関西で初めて取り組んできた、大阪芸術大学「錦影絵池田組」。木製幻燈機の風呂と仕掛け種板を操り、新作演目をご披露します。制作総指揮、池田光恵

上演日時●
平成22年2月20日(土)17時より・21日(日)15時より
上演は約1時間

上演会場●
じないまち交流館

大阪府富田林市富田林町9-29
近鉄長野線富田林駅(阿倍野橋より準急で約30分)下車
南口正面のパチンコ店左脇の道をまっすぐ300m

《入場無料》

主催●大阪芸術大学芸術計画学科
企画・制作・上演●大阪芸術大学虚実皮膜の間プロジェクト
後援●富田林市/富田林市教育委員会
協力●じない市実行委員会/(財)大阪21世紀協会/大阪府立大型児童館ビッグバン
お問い合わせ●大阪芸術大学芸術計画学科合同研究室 Tel: 0721-93-3977 内線: 3641

